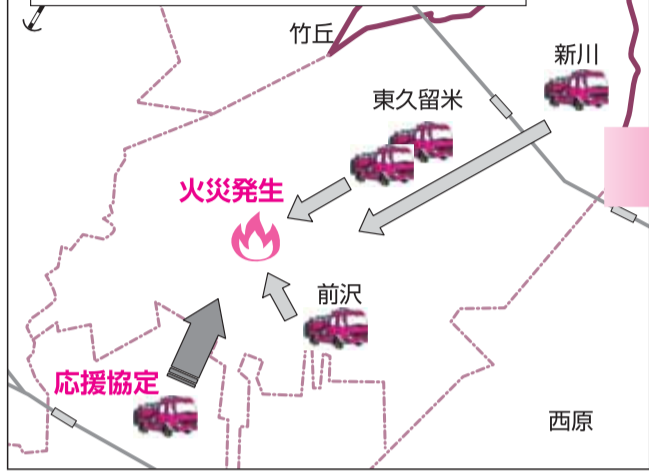


図1 火災発生時の対応イメージ

現在

東久留米からは、ポンプ隊4隊(全隊)が出場し、東京消防庁をはじめ近接消防本部から応援協定で1~2隊が出場します。同時に2件火災が発生した場合は、ポンプ車1台が、2件目の火災発生現場に転戦します。



委託後

東久留米および近隣署所からポンプ車が5~8台出動します。同時に2件火災が発生した場合は、近隣で待機しているポンプ車がさらに5~8台出動します。

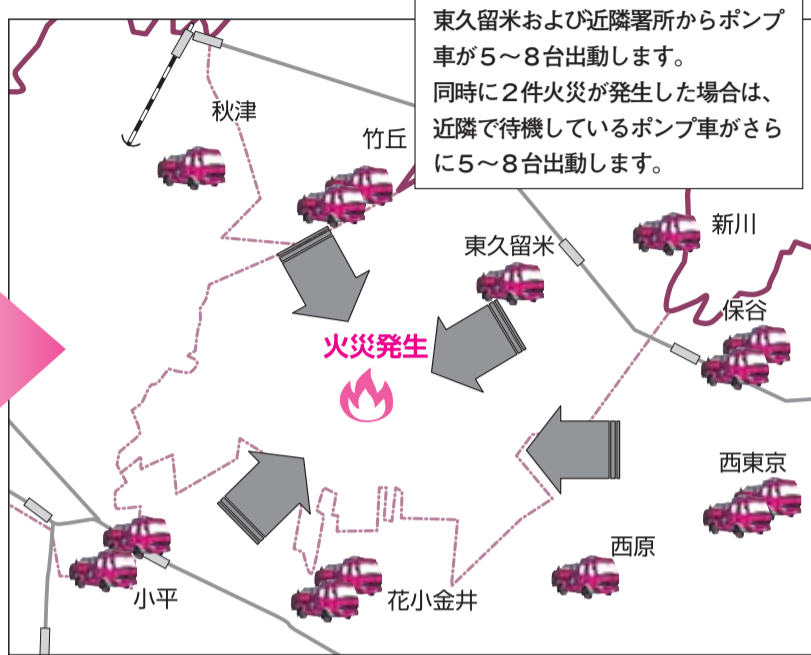
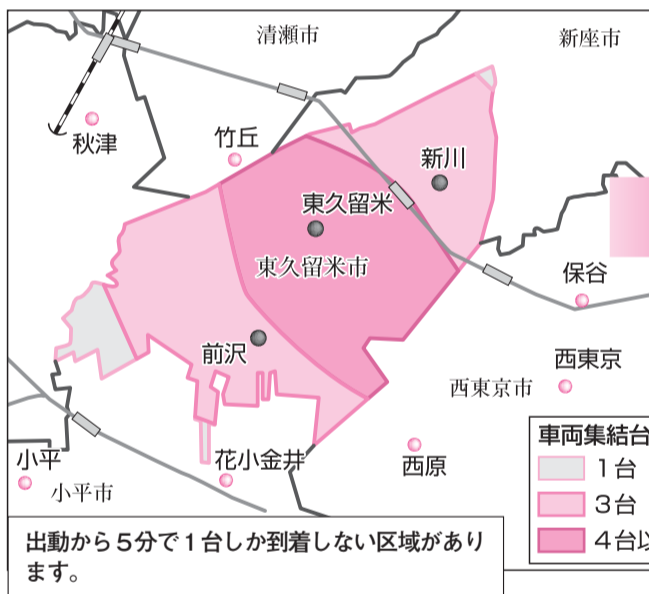


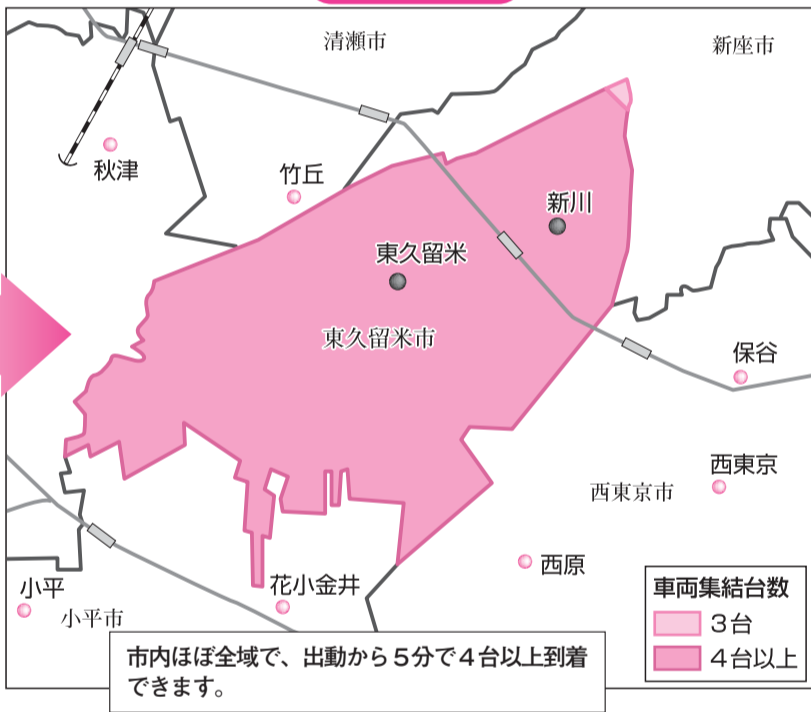
図2 市内における出動後5分でのポンプ車集結状況

現在



出動から5分で1台しか到着しない区域があります。

委託後



市内ほぼ全域で、出動から5分で4台以上到着できます。

消防の広域化により22年4月から  
消防体制が変わります

予定

その他

①消防署の正式名称は「東久留米市消防本部」から「東京消防庁東久留米消防署(予定)」に変わります

②市民の皆さんからの119番通報は、東久留米消防署ではなく、立川市にある東京消防庁多摩災害救急情報センターにおいて多摩地域一括で受信され、直近の消防部隊に

災害発生時の対応が充実します

①火災発生時に多くのポンプ車が集結します  
現在市内で火災が発生した場合、当市のポンプ車4台と応援協定により、東京消防庁をはじめ近接消防本部から1~2台のポンプ車が出動して対応しています。委託後は火災が発生した場合、まず、ポンプ車5~8台が集結します。また、火災の規模が大きければ、さらに近隣市等から多数の応援隊により、部隊の強

市では、これまでお知らせしてきました通り、都和協議し、「東京都・東久留米市広域消防運営計画」を作成しました。これにより、22年4月1日から東京消防庁への業務委託による消防の広域化を実施する予定です。今回は、委託後における近隣市の消防署を含めた消防の広域化の実現による消防体制等についてお知らせします。

詳しくは企画調整課行財政改革担当☎470・7845へ。



ハイパーレスキュー(防災訓練から)

消防活動基盤が強化されます

通信指令システムや、デジタル無線によるデータ伝送、GPS機能を活用した救急要請発生地点から最も近い救急隊の出動が可能になる等、これまで市単独では導入が困難であった資器材、システムの活用により、災害対応サービスの向上が図られます。

救急要請時の対応力が強化されます

現在、市は3台の救急車非常用車両を含む)で市内の救急要請に対応していますが、すべての救急車が出動してしまつた場合に、救急要請があつた時の対応に苦慮しています。委託後は市内消防署の救急隊はもとより、近隣市の消防署等からも救急車が迅速に駆けつける体制が整備されます。

《今号の主な内容》

- ・9月21日~30日に秋の全国交通安全運動を実施 2面
- ・新型インフルエンザ情報 3面
- ・12月1日から西部地域センターを一時閉館 4・5面
- ・21年度予防接種を実施します 7面

出動指令がかかります  
③東久留米市消防団については、これまで通りの組織・出動体制です。東久留米消防署はもとより、ほかの消防署の部隊とも協力し、市民の皆さんを、なお一層力強く守っていきます  
※「東京都・東久留米市広域消防運営計画(抜粋)」は、市ホームページでご覧いただけます。

化が迅速に行われ、火災の一挙鎮圧で被害の軽減が図られます。  
②災害発生時には、多くのポンプ車と災害内容に合わせた複数の部隊が集結できるようになります  
現在は1消防署、2出張所の体制で災害対応をしていますが、委託後は、災害発生時に市内の消防署はもちろんのこと、近隣市の消防署等からも災害内容に合わせてポンプ車をはじめ、複数のレスキュー隊やはしご車等が集結し、災害対応できる体制が整備されます。  
委託後は、前沢出張所が廃止される予定ですが、広域化により、今まで以上に多くの車両が集結できる体制となります。  
③専門部隊により災害対応力が強化されます  
大規模災害や特殊な災害では、通常の活動隊と合わせて、消防救助機動部隊(通称「ハイパーレスキュー」)、化学機動隊が強化されます  
なお、現在は委託に向けた準備の一環として、市内すべての救急車が出動してしまつていた場合は、東京消防庁から救急隊が迅速に出動する体制が整っています。